

学校教育目標 『よりよく生きる』

南中学校 ☎：982-1066

さわやか相談室 ☎：981-8749

ホームページ：https://www.yoshikawa.ed.jp/minami-jh



R5.4.1 現在	学級数	生徒数
1 学 年	4	140
2 学 年	4	147
3 学 年	4	159
特別支援	5	27
合 計	17	473

Restructuring、より良き未来を創る

吉川市立南中学校 校長 福嶋正悟

令和5年4月、147名の新入生を迎え、生徒数473名、17学級、教職員43名で令和5年度が始まりました。申し遅れましたが校長3年目となりました福嶋 正悟と申します。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、3月の卒業証書授与式の式辞で「卒業生がコロナで何もできなかった、かわいそうな世代だと言われるのは心外だ。コロナに負けなかった世代。コロナに打ち勝った世代であると言ってほしい。」と話しました。そして年度が替わり、新型コロナウイルス感染症に関する対応も大きく変わろうとしています。

具体的には、学校生活においてマスクの着用は基本的に必要ありません。また、給食の時間の黙食も無くなります。もちろん、新型コロナウイルスが消えたわけではなく、その扱いや対応が変わっただけなので、なんでも許されるという状況にはありません。一定の距離を確保できない場合は合唱中のマスクは必要ですし、黙食ではなくても、席の間隔が開けられない場合は、全員が前を向いて食べる給食となります。しかし、コロナが終息の方向に進んでいることは間違いない事実です。

それと同時に混乱も予想されます。思い返してみてください。新型コロナウイルス感染症が発見され、またたく間に世界中に感染が広がったとき、世の中はどうだったでしょうか。緊急事態宣言の発令、臨時休業、マスク不足、町から人が消えたロックダウン e t c。世の中の混乱ぶりは、想像を絶するものがありました。これだけ科学が進歩した時代だから、すぐにでも特效薬が開発され、1年も経てば落ち着くだろう。誰もがそう思っていたにも関わらず、コロナは人々の生活を大きく変えてしまったのです。

私はコロナの終息には、始まったときと同じように混乱が生じると考えています。例えば、コロナ当初は耳が痛くて煩（わずら）わしかったマスクも、4年近くもつけていると外すのが怖くなります。また、同調圧力といって、周りの人が外さないと外しにくいという状況が起こったり、マスクの有無による偏見も起こったりするかもしれません。こういった混乱は、容易に想像できるのです。コロナの終息には、始まりと同じような混乱があるかもしれないのです。

さて、令和4年度卒業生は「コロナに打ち勝った」世代と書きましたが、令和5年度の南中学校の生徒には、「より良き未来を創る」世代になってほしいと思っています。コロナで変わってしまった世界を再構築（Restructuring）する世代です。コロナでできなかったこと、制限されていたことができるようになる。しかし、すべてを元に戻せば良いという話ではありません。再構築とは良いものは残し、不要なものは削り、より良い形に作り替えることです。吉川市教育大綱「家族を郷土を愛し、志を立て、凜として生きてゆく」に基づき、学校教育目標「よりよく生きる」を実現し、そして、今よりもより良き未来を創るのです。それが、令和5年度であると強く思っています。